大阪新聞錦画 第拾号
東京砂村萩新田の勘兵衛が娘おなかと云二十四五才にて
駿河辺なる何某の嫁にて子供一人ありし中を
縁も切られ里へ帰りて近所の田村又三郎の子
清太郎を婿とあり暮に月日を廻り来る
彼の節両口に置し十七八の悴が勘兵衛方へたちより
何の子細か
男とおなかと二人さしむかいあり
大変々々明治八年五月廿七日
清三郎に送られし短刀の上の不体裁
小信改二代 芳形画
緑林律に
百十三号を見るべし